

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・総合, 国語, 社会科

目標・人権教育のねらい

- ・全ての児童が家庭環境や経済的な事情等に関わらず、自身の豊かな人生を切り開いていける「学力向上」を目指す。
- ・子どもたちが自信をもって成長し、より良い社会の担い手になるよう「自己肯定感の醸成」を目指す。

実施した内容

- ・授業研究を通して「一人一人の子どもに届く授業づくり」に取り組んだ。1・2年生では国語科を軸に、3～6年生では社会化を軸に授業改善を図った。
- ・総合的な学習の時間を中心にカリキュラム・マネジメントを行い、教科を超えて学習の基盤となる資質・能力の育成を目指すとともに、学校教育活動全体の中で子どもに活躍や成長を認める取り組みを行った。

工夫した点

- ・児童に「多様性を認め合う力」「課題解決能力」「コミュニケーション能力」をつけるため、思考ツールの活用や、対話が生まれる発問の工夫等を授業に盛り込んだ。
- ・人や社会事象と意図的に出会わせる機会をつくり、児童の主体的な探究活動につながるように単元の流れをデザインした。
- ・学年での学びを全校に伝えることで、学校全体として人権に関する意識の高揚につなげた。

他教科との
関連

総合・学活・国語・社会科

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・特別の教科道徳・学活

目標・人権教育のねらい

- ・男女平等の意識を育てる。
- ・性別にとらわれることなく「自分らしさ」の大切さに気付かせる。
- ・教科、領域のみならず学校生活全体に視野を広げ、「男女共同参画の視点に立った学校教育活動の充実

実施した内容

- ・9月の「オンリーワンタイム」で「自分らしさ」をテーマに各学年で、道徳の教材を用いて授業を行った。
- ・学校教育活動の中では、男女ともに「さん」で呼び合ったり、特活や行事での男女の人数制限などをできるだけ廃止した。

工夫した点

- ・「オンリーワンタイム」の内容について、「男女平等」をテーマにすると、適した教材を見つけるのが難しかったため、「自分らしさ」を取り上げ実施した。
- ・学校教育活動では、日常生活の中での取り組みとなるため、ごく自然に子ども達は受け止めている。必然性のない男女別を疑問に思えるアンテナを持てるようにしている。

他教科との
関連

特別の教科道徳・学活

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

小学校3年生 総合的な学習

目標・人権教育のねらい

- ・高齢者について知り、自分たちにできることを考える。
- ・高齢者の身体的特性や、高齢者の方々が暮らしやすいための施設の工夫、施設の職員の方々の工夫を知る。
- ・高齢者体験をしたり、施設訪問を行ったりして自分の考えを深め、考えを伝え合う。
- ・高齢者について知り、高齢者の方々と関わる中で、自分たちにできることを考えようとしている。

実施した内容

人権教育の視点から少子高齢化の社会情勢を学びに結び付け、地域の高齢者の活動を知り、高齢者の思いにせまるため、生活に密着して調べた。(9H)さらに社会科の視点から、地域の高齢者をゲストティーチャーとして招いたり、老人福祉施設の見学や交流をしたりして、認知症や高齢者福祉に関わる学びを深めた。(10H)

工夫した点

- ・社会福祉協議会と連携し、社会科の学習を通じて高齢者の方との交流の機会を持った。
- ・地域の高齢者施設の協力を得て、「お年寄り体験」「認知症の学習」を行った。
- ・高齢者福祉の課題にはかり目がいてしまうことがあったが、指導者は、マイナス面だけに目を向けるのではなく、高齢者の豊富な知識や経験に気づき、地域の一員として自分ができることは何かを考え、実践していこうという思いを持つことができた。

他教科との
関連

- ・社会科「市の様子とくらしのうつりかわり」

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

小学校4年生 総合的な学習

目標・人権教育のねらい

- ・藤ノ森は住みよいまちであるか考える。
- ・障害のある人たちに出会い、実態を学ぶ。
- ・やさしいまちづくりのために自分たちができることを考える。
- ・藤ノ森に住んでいる地域の方の願いを知り、共に住みやすい場所になるように生活しようとする。

実施した内容

- ・パラリンピックの開催を機に、車いすバスケットボール選手による体験学習とワークショップを通して課題設定につなげた。これをきっかけに身体障害、視覚障害等、子どもの探究プロセス方向性を定めた。
- ・新しい車いすの開発に取り組み、アイデアを盛り込んだ提案を行った。

工夫した点

- ・車いす体験に車いすバスケットボールを組み込むことで、障害＝マイナスというイメージにとどまらず、生きがいや、楽しさに触れることができた。パラリンピック開催前ということもあり、子ども達は興味を持ってパラスポーツに出会うことができた。
- ・子ども達が考えたアイデアについて、車いすバスケットの選手からアドバイスをもらいさらに深めることができた。

他教科との
関連

図工科「言葉から形・色」（人権ポスター作り）国語科「思いやりのデザイン」

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

小学校6年社会科・教職員研修

目標・人権教育のねらい

- ・6年生社会科で同和問題に関連する8単元の学びの充実。
- ・同和（部落）問題に関する正しい知識と理解
- ・低学年からの人権学習の素地作りの充実
- ・教職員の関係単元に関する学び直しの実施

実施した内容

- ・6年社会科8単元について、今までの授業実践を生かし授業を展開した。「渋染一揆」は授業研究として全教職員で検証を行った。
- ・教職員研修としては、校内の人権研修に加え、「部落問題学習プラン」について、教職員全員で外部の研修会に参加し、研鑽を深めた。
- ・月1回の「オンリーワнтаイム」を実施した。

工夫した点

- ・6年社会科8単元について、本校で培ってきた実践をもとにさらに積み上げる形での取組を行った。研究授業では、事前授業の段階から指導助言を経て、より充実した授業づくりを行った。子どもの思考をより深める「問い」に焦点を当てた。
- ・本校の実践をより史実に基づいた内容にするための学び直しの機会を、外部の研修会に全員が参加することで持つことができた。
- ・「オンリーワнтаイム」の内容について、実施後検討を加えた。

他教科との
関連

「オンリーワнтаイム」・・・道徳科・学活

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

外国人教育

対象学年・
取り扱った教科等

小学校2年生学活・教職員研修

目標・人権教育のねらい

- ・ 韓国の衣食や遊び，文字に出会い，楽しみながら韓国の文化に触れ，親しむ。
- ・ 教職員が京都市の外国人教育の取組についてその歴史や実践について学ぶとともに，在日コリアンの現状と課題について理解を深める。

実施した内容

- ・ パワーポイント等を用いて韓国の衣食住について学習した。
- ・ 遊びや文字，あいさつの言葉など学習した内容について発表した。
- ・ 教職員研修として，外国人教育の研究者によるリモート研修会を実施した。京都市の外国人教育が何をめざし，何を行ってきたのか実践報告。現代における在日コリアンの課題について講義を受けた。

工夫した点

- ・ 遊ぶ道具や衣装などできるだけ本物を準備した。
- ・ 視覚に訴える資料を用意したり，子どもたちが体験できる場面を用意した。
- ・ 一昨年の教職員研修では，京都市の外国人教育が動き出した当時，実際に子どもや家庭とかわった先輩教師の講義を行った。今年度は研究者の立場からの見解を学ぶことができ，外国人教育について多面的な学びを行うことができた。

他教科との
関連

- ・ 国語科「読んでかんじたことをつたえよう」（スーホの白い馬）
- ・ 外国語活動「絵本をしょうかいしよう」

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

小学校5年生学活・教職員

目標・人権教育のねらい

- ・高度に情報化する社会生活の中で、情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解する。
- ・新たなネットワーク社会をはじめ日常生活において安心安全に情報手段を活用する。
- ・身の回りのあふれる多くの情報に適切に対応できる力を養う。
- ・情報の取扱いに対する責任を自覚し、望ましい情報社会の創造に参画する基本的な考え方や態度を培う。

実施した内容

- ・携帯電話会社による出前授業
- ・SNSトラブルの実際と個人情報に関する学習
- ・教職員研修でゲーム機器とインターネットの接続による課題と対策、最新の子も達のトラブルの現状と課題等について研鑽を深めた。

工夫した点

- ・保護者の関心も高い内容のため、11月の人権啓発授業に位置付け、保護者啓発も兼ねた。
- ・教職員研修会では、SNSトラブルが人の命をも奪う。という子ども達に関わるものとして危機感を持つことのできる内容で行った。
- ・単なる講義ではなく、ワークショップをすることで内容を深めることができた。

他教科との
関連

- ・社会科「情報化した社会と産業の発達」・国語科「想像力のスイッチを入れよう」

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・
取り扱った教科等小学校5年総合的な学習
教職員研修

目標・人権教育のねらい

- ・ 色々な性と、人と人とのつながり、自分らしさについて考える。
- ・ L G B T について知り、様々な価値観や考え方があることを知る
- ・ ゲストティーチャーの話や集めた情報をもとに、自分の生き方や友だちや社会に対する関わり方を見つめ直す。
- ・ 集めた情報や考えたことをまとめ、伝える。
- ・ 自分らしい生き方とはどのようなものか考え、実践していくことができるようにする。

実施した内容

- ・ 性的指向、性自認について、その多様性について考えよう。(10時間)
- ・ 自分らしさとは何かを考え、自分の意見を発信しよう。(15時間)
- ・ 調べたこと、まとめたことについて交流し、多様性を認めるために大切なことは何か考えを深める。
- ・ 当事者の方を招いてのワークショップ(児童向け・教職員向け分けて実施)

工夫した点

- ・ 本校児童のカミングアウトをきっかけに「LGBTQ」の取組は4年目となる。この学びの最大のポイントは当事者との出会いである。このファーストコンタクトは子ども達にとって性的指向、性自認の多様性を認める大切な出会いである。女性として生まれ、今は男性として生活している方をゲストティーチャーに招きワークショップを行うことが、学習での学びを、作文やポスターを通して発信する原動力となっている。
- ・ 教職員の入替わりに対応するため研修会を実施

他教科との
関連

図工科「言葉を絵や形に」国語科「あなたはこう考える」